
春夏秋冬

黒耀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春夏秋冬

【Zマーク】

Z9671V

【作者名】

黒耀

【あらすじ】

季節と時を詩にしてみた5作です

春

柔らかい日差し ポカポカ暖かい毎日
咲き乱れる花 新しい生命 慣れない制服
そして 別れと出会い

何か新しい事が始まる そんな季節
心が弾み 気分が高揚する

その一方で 悲しい別れもある
共に過ごしていた仲間と別れ
自分独りで歩いて行く

しかし 別れの先に待っているのは
新しい出会い

そうすると結局

心が弾み 気分が高揚している

あんなに別れが辛かつたのが まるで嘘のよう
薄情かもしれないが 新しい仲間が出来ると
過去の仲間は疎遠になってしまつ

心が弾むのに 何処か寂しく感じる

それが私の 春

夏

青い空 かすかに聞こえる蝉の声 少し熱を持つていい心地よい風
紅い空 遠くに聞こえる蛙の声 少し冷えた心地よい風

同じ季節なのになつての顔がある それが面白くて楽しい

昼間 一步家から出ると とたんに襲ってくる強い日差し
それを宥めるように やわしい風が吹く

夜間 数歩家から出ると やさしく迎える星空
それが嬉しいのか 少し強い風が吹く

暑いと毛嫌う人も居るけど この暑いのが良いのだと私は思つ

身体が冷たさを求める 水に入ると シーンと静まり
嫌な事 考えたくない事から 一時的に逃がしてくれる

それが私の 夏

秋

美しく染まる木々 頬を撫でる少し冷えた風
かすかに聞こえる虫の鳴き声

紅く染まつた美しい木々に心を奪われ
少しばかり冷えた風に心地よさを覚え
何処からか聞こえる虫の鳴き声に心を癒される

なのに この心の焦りは何だろう

気づけば 春 夏と過ぎていて
自分は この半年の間に
何が出来たのか 何を残せたのか
分からぬ 分からぬ 分からぬ

しかし 時は待ってくれない
何故だろう 置いてかれた気分になるのは
何故だろう 孤独に感じるのは

それが私の 秋

冬

高く澄んだ空 耳が痛くなる冷たい風
そして煌めく数々の星と神秘的に光る月

強く冷たい風で身体が冷え

夜空に輝く数々の星に心を救われる

煌めく星の下 人々は誰を想うのか

愛しい人 大切な人 友人 家族

ぼんやりだが美しく光り輝く月と
遠く 遠く離れた所で光っている星達が

何処に居てもみんな繋がっている

そう囁いてるよう見える

離れてしまった仲間 友達 家族

それでも みんな見えない何かで繋がっている

傍に居ないのが悲しくて 寂しいけど
また いつか会える そう信じてる

それが私の 冬

春夏秋冬の時

春 新しい命が生まれ 風が花の香りを運び

夏 暑い日差しに 少し湿った風が頬を撫で

秋 美しく木々が染まり 少し冷えた風が通り抜け

冬 夜空に煌めく幾千の星達 冷たい風が肌を刺す

季節によって見せる顔は全て違う
そして 同じものは一つとしてない

過ぎた季節はもう 戻つてこない

悲しくも 厳しい現実

同じ名称で呼ばれていても 同じではない
その年 その年によつて全てが違う

気候であつたり 雰囲気であつたり

同じものは何一つとして ない

だから 大切にしてほしい
今 生きている 一分一秒を

時は何一つ取り戻せない

後悔して 悔やんで

前に進めなくなつても 時は止まらない

悔やむのは悪い事じやない

だけど 早く立ち直つて 前に進むことを考えて

世界の時は休まず動き続けている
自分の時は変わらず止まっている

そんなの 悲しいだけ

前を向いて 向き合つて そこで己は成長できる

過ぎてしまった事 後悔した事

それらを忘れるとは言わない
置いて行けとは言わない

だけど私は貴方に

背負い過ぐるなと言おう
一人じゃないと言おう

季節が変わるようにも変わつて行く
時が全てを変えて行くように感じても
実際は自分の手で変えていく

不安にならなくてもいい 気づいてないだけ

前に向かってひたすら進めば ほら

人は輝いている

過ぎ行く季節の中で 人は変わる
一分一秒たりとも同じ貴方は居ない

春夏秋冬～時～（後書き）

暗い内容が多かつた気がしますが、私のイメージはこんな感じでした。

駄文を拝見していただき誠にありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9671v/>

春夏秋冬

2011年8月23日12時53分発行